

予算等審査特別委員会（議長を除く21人の議員で構成、委員長は菊池民彌議員、副委員長は浅沼幸雄議員）は、条例4件、予算9件、その他4件について付託を受けて2日間の審議を行いました。

今委員会では、今後の施策全般にわたり活発な質疑が交わされました。その結果、全15議案が原案のとおり可決されました。

ひとり親家庭医療費 給付事業について

問 母子家庭は生活や医療まで保障されるが、父子家庭は医療だけしか保障されず、母子家庭と父子家庭では保障に差がある。父子家庭は厳しい状況下にあるが、その対策

は。

答 広報・チラシで周知し、平成22年10月1日から、ひとり親家庭医療費助成事業が始まり、平成22年8月1日から父子家庭児童扶養手当も支給され、母子家庭から父子家庭にも対応を講じられている。事業予算は80世帯分を見ている。

農地流動化 について

問 農地制度実施円滑化事業費450万の予算の内容は。

答 農地の全筆調査の義務化、農地売買や貸し借りの現地確認、遊休農地のデータ管理など委員会業務が増えている。その報酬などである。

問 最近における農地流動化の現状と貸し手、借り手への助成は。

答 流動化は農地全体で11・2%で、全国的にみ

ても多くはない。助成制度は17年で終わっている。ただし、集荷円滑化団体を組織することによって助成はある。今、市とJAでその組織づくりのために協議中である。



畜産振興について

問 放牧管理を主体とした生産支援の公共牧場が、生産組織、担い手機関と生まれ変わる計画は。

答 国の補助事業費を利用して、草地・施設改修

に向けて機能を強化し、整備事業を23年度の採択に向けて基本調査で関係団体・畜産農家と、意見交換をした。

問 畜産農家個々の施設投資を抑えた増頭の推進と、繁忙期に子牛の受け入れや安定品質を確保するためのキャトルセンターの整備時期は。

答 労働力と施設の軽減の為に、キャトルセンターの建設を23年の採択に向けて進めている。計画が順調に進めば、24年も事業に取り掛かる。



道路維持補修時期 について

問 雪解け後に目立つ舗装の穴は危険なので補修を3月中にも出来ないのか。

答 舗装道路の凍上による穴は、住民にとって非常に危険だと認識している。限られた予算でパッチングによる補修工事を行っている。地区センターで受け付けてから、新年度予算を執行すると、どうしても補修時期が6、7月頃になる。年度末では、予算的にも窮屈なので対応が難しい。そこで、12月に額を定めて債務負担行為を設定し、新年度予算の執行を待たないで、23年3月末でも舗装補修工事が発注できるように研究、検討したい。